

令和元年度 第1回 佐久市立近代美術館 協議会 議事録 (要旨)

令和元年8月8日(木曜日) 午後1時30分～午後4時

佐久市立近代美術館 視聴覚室

出席者 協議会委員 9名(欠席1名)

近代美術館館長・近代美術館事務長・美術館係長・係員

1	開会(進行:近代美術館事務長)
2	あいさつ
3	会長・会長職務代理選出
	会長は互選により高橋了太委員、 会長職務代理は会長の指名により鈴木順子委員
4	協議事項(進行:協議会会長)
	(1)平成31年度の展覧会計画について
	近代美術館: (平成30年度佐久市立近代美術館事業について説明)
	委員: 観覧者数の減少について説明があったが、その理由を美術館はどのように分析しているのか。
	近代美術館: 正確に減少した理由を分析することはできないが、展覧会のほか、ギャラリートーク、ワークショップ等、集客が見込まれるイベントを開催しているものの、観覧者数は増加しない。主な理由としては、近年は市内の他の文化施設等でも各種イベントが実施されていること等、市民等の選択肢が広がったこともあると考えられる。今後も、美術館ならではの魅力あるイベントを考えていく必要があると考える。
	委員: 観覧者数が増加した平成29年度の展覧会は、どのような内容だったのか。
	近代美術館: 平成27年度から平成29年度にかけて、子どもや若い世代の来館を促すため、絵本作家を取り上げた展覧会を開催してきた。平成29年度の特別企画展「美術館に行こう! ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方」は、ミッフィーの生みの親であるディック・ブルーナの作品を中心とした展覧会で、多くの子どもたちが来館したこともあり、観覧者数は5,968人にのぼった。

これに対し、平成 30 年度の特別企画展「一葉師寺と平山郁夫の縁― 玄奘三蔵と仏教伝来」は、展示資料に関心のある方の来館はあったが、集客は伸び悩んだ。

ニーズを的確に掴まなくてはならない。

委員：

特別企画展「一葉師寺と平山郁夫の縁― 玄奘三蔵と仏教伝来」で展示されていたような古い文化財には、市民の関心が向かにくい。

古い文化の継承は重要な課題と考えるが、公民館でもこうした活動を行っていたグループが次々と解散しており、難しさを感じている。

委員：

薬師寺の文化財や、平山郁夫のような近現代美術の巨匠の作品を観てもらうのは、美術館の役割として非常に大切である。

他方で、大英博物館の「葛飾北斎展」や「漫画展」が盛況となり、漫画や浮世絵が日本美術のひとつのジャンルとして国際的に認められてきている状況もある。

年に 1 度の特別企画展では、小さな子どもや若い世代の興味を引き付けるような展覧会と、平山郁夫などの近現代美術が見られる展覧会を同時に開催してはどうか。

近代美術館：

茨城県近代美術館の「生誕 90 周年記念 手塚治虫展」、国立新美術館の「荒木飛呂彦原画展 JOJO 冒険の波紋」、上田市立美術館の「未来のミライ展～時を越える細田守の世界」など、アニメ・漫画等を扱った展覧会が、ここ数年で増加している。

当館でも、佐久市出身の漫画原作者・武論尊氏が主宰する「武論尊 100 時間漫画塾」の塾生展をこれまでに 2 回行ってきた。来年度は「武論尊原作作品展（仮称）」の開催を検討している。

委員：

昨年小海町高原美術館で開催されていたような、新海誠監督の展覧会はできないか。

近代美術館：

佐久市の美術館として漫画展等の開催を考える場合、作家の選定にあたっては、佐久市出身の作家の功績をとりあげていくべきと考える。

このため、バルーン・ラッピングバス等で大変な協力があり、佐久市出身の武論尊氏の作品展の開催を考えるものである。

委員：

人気がある、話題性があるものを展示するのもいいが、地域の良さを活かす館であってほしい。

美術館は、多くの市民にとっては行きづらい場所とされている。

印刷物やウェブサイト等での広報以外にも、教育普及活動に力を入れ、誰でも参加できるイベントで、美術館の存在意義をアピールしてはどうか。

近代美術館：

これまで美術館は、子どもたちの来館を歓迎してこなかった面があると思われる。騒ぐと監視員に注意されるなど、子どもを連れて行くことができないという声も聞かれる。

当館では、昨年度から小さな子どもが泣いてもいいという触れ込みで、家族や友人と話をしながらの観賞ができる「トークフリーデー」を実施している。また、中央図書館と協力して、展示室内での「絵本読み聞かせ」も行い、子どもたちにも来やすい環境づくりを行っている。

委員：

小中学校から子どもが来られるように、交通手段について検討してほしい。

先ほど、ロビーに小中学校の美術部の団体がいたので、引率の先生に話をきいたところ「こうした活動の際には町からバスを出せる」と言っていた。

また、子どもたちに直接呼びかけると、結構イベントに来てもらえることから、直接的な働きかけをすると良い。

委員：

委員になってから2年間、オープニングセレモニーなどを見て、音楽家を呼んだり、保育園の子どもたちを呼んだり、様々な工夫をしていることがわかった。

そのような工夫にもかかわらず、美術館が敬遠される理由として、建物が古いことも挙げられる。行きやすい美術館となるよう、改修してもらいたい。

さらに、終了したイベントが新聞広告に掲載されたままになっていたことや、一番近い文化施設である佐久創造館に、近代美術館のポスターが貼られていなかったこともある。広報についてもやり方を見直す必要があると思う。

また、協議会の改選は6月1日であるのに、なぜ会議の開催が8月なのか。開催が遅いのではないか。

近代美術館：

建物や機器の修繕について、予算的な面から回答する。

開館から35年が経過し、老朽化が進んでおり、今年度はエレベーターの改修工事を行う。電気設備、空調設備も更新時期がきているが、多額な費用が必要となることから、順次計画を立てて実施している。

このため短期間にすべてを直すことは困難である。改修については、職員も自ら工夫をするなどし、実施していく必要がある。

協議会の開催時期については、教育委員会定例会で協議会委員の任命について諮る関係や、夏の展覧会開催のための準備期間、委員の皆様の出席日程の調整などにより、この時期に開催した。

しかしながら、もう少し早い時期の開催を検討する必要がある。

委員：

今年度の事業計画を年度途中で説明するのはなぜか。

公民館では10月に次年度の事業計画を策定する。次年度以降に活かしていくとしたら、いつが良いか考えるべき。

近代美術館：

昨年度は2回協議会を行った。今年度の事業計画は、昨年度1月31日の第2回協議会で説明し、意見要望もいただいたが、新しく委員に任命された方もおられるため、今回の議事に入れた。

委員

事業報告について、人数の単純な比較は可能だが、美術館としてどのくらいの観覧者数を目標としていたかが示されていないため、意見できない。

近代美術館：

目標値については、予算要求の段階で例年の観覧者数との比較から、観覧料収入に対する目安として数値化しているが、毎年展覧会の開催内容が異なるため、一概に目標値を定めることが難しい面もある。

委員：

この協議会は、観覧者数がどれだけ増えたか、減ったかを議論する場ではない。少ない人数であってもいいと思う。

予算要求の際も正々堂々と趣旨やターゲットなどを説明してほしい。

今年度の特別企画展「松尾敏男展」は、観覧者数は少なかったかもしれないが、非常に充実した内容だった。

近代美術館：

現在開催中の収蔵品展「なつやすみ！アートダンジョン ～美の迷宮であそぼう～」はクイズ形式の展覧会。収蔵品展に関しても、このような創意工夫により、観覧者をここまで増やそう、という目標はたてるべきと考える。

昨年度の収蔵品展と、今回の収蔵品展との人数を比較し、目標を検討する。

近代美術館：

近代美術館に来たことのある市民は何%くらいなのか。

近代美術館：

正確な数字は不明だが、無料開館の際などの聞き取りでは、初めて来たとの回答が多い。通常の開館日の来館者は、ある程度固定化されているものと思われる。

委員：

近隣の学校の先生も、美術館に来たことがない人が多い。私達より上の世代は、もっと美術館を敬遠してきたのではないか。

美術館に行ったことがない先生に美術館をすすめられても、子どもたちは行かないと思う。アートダンジョンは良い企画だが、同じターゲット層の子どもも未来館にもアプローチするなど、外に発信していく工夫が必要と感じる。

県立長野図書館が近ごろ改装され、パソコンや3Dプリンターを備えた「信州・学び創造ラボ」が新設された。こうしたスペースがあれば、普通の大人が、図書館で仕事をする事ができる。

ちょっとした予算の使い方で空間の使い方が一気に変わるので、考えてみてもらいたい。

近代美術館：

ニーズを幅広く考えていく必要がある。

(2) 令和元年度事業について

近代美術館：

(令和元年度佐久市立近代美術館事業について説明)

委員：

地方の公立美術館を訪問する場合、展覧会の内容を確認して行くかどうか判断することが多いが、近代美術館では展覧会の開催内容をどのようにして決めているか。

近代美術館：

基本的には年間を通して、故油井一二氏ならびに美術年鑑社などから寄贈を受けた資料を展示する収蔵品展を開催しており、収蔵作品を効果的に見せるテーマを考えて、展覧会の内容を決めている。

当館収蔵品の母体となった「油井コレクション」は個人のコレクションなので、収蔵品の年代・ジャンル・作家は多様である。今回の収蔵品展「なつやすみ！アートダンジョン ～美の迷宮であそぼう～」は、多様な作品を親子で楽しんでもらうには、どうしたらいいかと考えて企画した。

特別企画展は、収蔵品展だけでは注目を集めにくいとため、美術館を知ってもらい、美術を普及するという目標をすすめていくため、年1回程度実施している。

特別企画展では、地域にゆかりの作家の展覧会などを行っている。今年度の「松尾敏男展」のように、話題性や人気のある作家を取り上げる巡回展も開催している。

委員：

協議会に出席するにあたり、周りの人に美術館に言いたいことをきいてみたところ「入り口が暗くて入りづらい。やっているのかやっていないのか、よくわからないときがある」との意見があった。雨の日は特に暗いと思う。どこまで明るくできるかはわからないが、明るくしてもらいたい。

先ほど漫画の話が出たが、他館で開催された原画展を見に行ったとき、雑誌に掲載されたものとは迫力が違った。駒場公園で行われるイベントに参加したお客さんに入ってきてもらえるような企画をしてほしい。

漫画展のブームが到来していると感じるので、この機会を逃さないようにしてほしい。

近代美術館：

美術館の建築はコンペで選ばれて作られた。美術館の入口については、以前からも指摘されているところであり、一部改修も行った。展覧会告知用看板も以前から指摘されているところであり、分かりやすい案内にしていく。

「武論尊展」については実現できるよう努める。創造館の「佐久の夏」、駒場公園の「アニエラフェスタ」「ぞっこん！さく市」との連携もできるよう考えていきたい。

近代美術館：

施設改修については、来年度末までに「佐久市公共施設総合管理計画に基づく個別施設計画」を策定することとなっており、来年度までは大規模な設備投資が難しい状況であるが、施設計画の策定を機に抜本的に考え直すことができる。再来年度以降は、施設計画にしたがって計画的に進めていきたい。

委員：

入口の明るさについて、どのくらいの明るさが良いか実験したことはあるか。

近代美術館：

入口（風除室）の電球は、開館当初から倍に増やしている。また、白熱電球をLEDに変更するなど、改修してきた。

委員：

物理的な光の明るさもあるが、どんな使われ方をしているかということでも印象が変わる。例えば、同じ明るさでも誰もいない喫茶室は暗い雰囲気になると思う。物理的な明るさでない空間づくりも進めてほしい。展示を見ない人たちにも入ってもらえるようなスペースにできると良い。

また、アートやデザインの本をショップに充実させてほしい。長野や松本へ行かないと買えない専門書があると良い。

委員：

建物自体の増改築や建て直しではなく、ルーヴル・ピラミッドのように何か新しいものを設置することで、空間の役割を変えていくのも選択肢だと思う。公園の一部として、気軽に入れる美術館になってほしい。

	<p>委員： 「涼みに来るくらいのところになってほしい」という意見は以前からずっとあり、今は設置されていないが、喫茶室に自動販売機が設置されるなどして、良くなった。駒場公園「創造の森」として他の施設と連携することが集客につながると思う。今は口コミでいくらかでも情報を広められる時代だ。</p> <p>近代美術館： 施設間の連携がとれていないことは認識している。それぞれの施設が協力、連携し、相互に良い影響を与えながら、市の経済の活性化にもつながる取り組みを検討しているところである。</p>
(3) その他	
	<p>委員： 最近インターネットやユーチューブの広告をよく見る。広報の方法として検討する必要もあると思う。</p> <p>近代美術館： SNS など、インターネットを利用した情報発信は重要であると考えているが、自由な内容による発信は難しく、画一的になり、あまり面白みがなくなってしまうのは課題である。</p> <p>委員長 写真撮影可としている美術館があるが、近代美術館はどうか。</p> <p>近代美術館： 著作権の問題から権利者の許諾が必要なため、難しいところがある。特別企画展「松尾敏男展」では権利者の了承を得て、1点のみ可とした。今後も検討していきたい。</p>
4 閉会	
	近代美術館館長：(お礼の言葉・閉会)